

会 議 録

会議の名称		令和5年度第1回守谷市地域福祉推進委員会		
開催日時		令和5年9月26日(火) 開会:14時00分 閉会:15時45分		
開催場所		市役所 全員協議会室		
事務局(担当課)		健幸福祉部 社会福祉課		
出席者	委員	荒川委員、清水委員、長谷川委員、森山委員、天内委員、山下委員、小野寺委員、澤田委員、永井委員、染谷委員、大塚委員、鶴田委員、萩原委員、斉藤委員、長津委員、佐藤委員 計16人 (欠席者:横張委員、古屋委員 計2人)		
	その他	社会福祉協議会:高橋事務局長		
	事務局	稲葉健幸福祉部長、羽田社会福祉課長、滝本健幸長寿課長、高橋市民協働推進課長、松井社会福祉課長補佐、北川係長		
公開・非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0人
公開不可の場合はその理由		守谷市審議会等の会議の公開に関する指針		
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 委嘱状交付 4 議事 (1) 第3期守谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和4年度事業取組状況 (2) その他 5 閉会		

確定年月日	会議録署名
令和5年10月11日	委員長 山下 勝博 議事録署名人 長谷川 禮子 森山 克彦

1 開 会(事務局)

2 あいさつ(山下委員長)

3 委嘱状交付

新たに委員になられた委員2名に対する委嘱状の交付

- ・「守谷市 PTA 連絡協議会の代表」として、守谷小学校 PTA 会長である永井 祐介 様
- ・「自治会連絡協議会の代表」として、レーベン守谷松並自治会長である古屋 正博 様

4 議 事(進行:山下委員長)

(1) 第3期守谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画 令和4年度事業取組状況

事務局から令和4年度事業の取組状況、重点事業の進捗状況等について説明(約20分)

<委員からの御意見・御質問>

- ・ 澤田委員
ラジオ体操の貸し出し器具とはどのようなものですか。
- ・ 事務局(羽田課長)
ラジオ体操で使用するラジカセ等を計8回、保健センターで貸し出ししています。
- ・ 澤田委員
コミュニティ・スクールとは、どのようなものですか。
- ・ 事務局(高橋課長)
学校と保護者、地域と一緒に学校運営について考えていこうというものです。
御所ヶ丘中学校区をモデル地区として展開しており、まちづくり協議会も携わっています。
今年度、小学校においては、保護者への児童の引き渡し訓練の際に、防災倉庫の確認等を実施しています。中学校においては、職業体験に関して、まちづくり協議会の方からも御意見をいただきながら進めているところです。
- ・ 澤田委員
職業体験はとても重要だと思います。
きちんと人選し、具体的な経験談を話してもらえればと思います。
- ・ 事務局(高橋課長)

ひがし野地区のまちづくり協議会でも、職業体験の一環として経験談を盛り込むといった話がでています。こうした動きを他地区にも広げていければと思います。

- ・ 小野寺委員

職業体験に関して、北守谷地区まちづくり協議会においても、これまで学校が行っていた企業への働きかけを、まちづくり協議会役員が実施したとのことです。

コミュニティ・スクールとは、学校が核となり、地域が支援するといった形が本来の形ではないのかと思います。これまで学校で実施していたことを、単に地域住民に依頼するといったことでは、良くないのではないのでしょうか。

短期間で実施するのではなく、きちんと検討する必要があると思います。

- ・ 山下委員長

コミュニティ・スクールについて、もう少し詳しく説明していただければと思います。

- ・ 事務局（高橋課長）

コミュニティ・スクールは文部科学省が推奨し、教育委員会生涯学習課が進めている事業です。

守谷市での取組みは他市町村に比べ遅れていますが、守谷市にはまちづくり協議会という地盤があります。それを活かして、コミュニティ・スクールを進めて行く方針です。

- ・ 森山委員

大井沢地区まちづくり協議会代表として、北守谷地区まちづくり協議会と一緒に職業体験の準備に協力しました。

ただ、当初、生涯学習課から話をいただいた際には、コミュニティ・スクールの取組み自体が見切り発車なのではないか、ということで協力をお断りしました。当事業は、地域と一体となって学校運営を行っていく、地域の人的資源を学校に投入するという2つの目的があると思います。地域のマンパワーが必要なのか、地域と連携して進めて行く意思があるのか疑問でしたが、決定事項としてお話をいただきましたので、本年度は学校からの依頼にお応えするという形でまちづくり協議会としても協力させていただきました。

今後の動きを見守りたいと思います。

- ・ 山下委員長

近頃、中学校の部活指導を地域住民にお願いするという動きもあります。コミュニティ・スクールもそうした動きと関係しているのかと思いました。庁内でももう少し検討してから、地域に話を降ろしてほしいと思います。

資料1の2ページに記載のある数値について質問です。「市民活動に参加したいと思う市民の割合」は減少しているにも関わらず、「ボランティアや自治会等の地域活動に参加している60歳以上の市民の割合」は増加しています。相反するように思われますが、どのような要因が考えられるのでしょうか。

- ・ 事務局(羽田課長)

アンケートの対象者が異なる可能性があります。「市民活動に参加したいと思う市民の割合」においては、若い世代もアンケートの母数に含まれていると思われます。若い世代の方が、参加したいと思うような取組みがあるのか、といったことも影響しているのではないかと思います。

- ・ 山下委員長

若い世代、子育て世代の方も魅力を感じるようなイベント等を実施していく必要があると思います。

- ・ 澤田委員

みずき野地区も高齢化が進んでおり、高齢者向けのイベントが多いです。

地域の認知症の方も心配ですが、うつ病を患っている方も心配です。うつ病の方は、家にいる傾向が強く、地域との繋がりが乏しいように思われます。

市から民生委員に対して提供されている避難行動要支援者名簿についても、名簿に掲載されている要支援者のうち、本当に助けを必要としている方がどの程度いるのか、きちんと精査してほしいと思います。

- ・ 大塚委員

配布資料について、資料1の重点事業の説明部分については、写真があり、わかりやすいと思いました。資料2については字が小さく読みづらいので、今後工夫してほしいです。

第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画においては、基本目標が3つあります。その基本目標1 基本施策1として「人材の確保・育成」が掲げられています。

介護支援ボランティアポイント制度は良い取組だと思いますが、高齢者が実施したボランティアのみがポイントの対象となっており、対象施設も限定的です。これでは、将来的な人材育成に繋がらないのではないかと思います。

現在、地域で活動されている方の多くは高齢者です。人材育成に手詰まり感を感じます。市がどの程度問題意識をお持ちなのか疑問です。パラダイムシフトをし、市の関係部署がワンチームとなり、計画の1丁目1番地である人材育成について、すみやかに検討を開始していただきたいと思います。その際、地域活動への参加の意義を強調するだけでなく、楽しく

活動に参加できるような工夫が必要だと思います。地域活動については、「敷居は低く、間口は広く、将来に繋げる」ことを意識していただきたいです。

守谷市では「守谷は、未来におせっかいです。」といったシティプロモーションのメッセージがあります。「おせっかい」の中身が分かるような、具体的な歯車となる事業を示していったほしいと思います。

7月の市民大学で豊島区にお住まいの栗林氏の講演を拝聴しました。地域の方と「ゆるく出会い、顔見知りになる」ことで、有事の際も「放っておけなくなる」といった話がありました。

今後の市の取組みに期待しています。

- ・ 鶴田委員

単に運動だけをしている方より、地域活動をしているの方が、フレイルの割合が低いといったデータがあります。そうした点も広報していくと良いと思います。

シニアの方が実施するイベント等についても、若い世代の方の参加も念頭にいれていく必要があると思います。

シニアの方が地域活動やボランティアに参加することが、シニアの方の元気に繋がります。

- ・ 澤田委員

みずき野では丁目ごとに、定期的にイベントを実施しています。そうした場で知り合うことで、コミュニケーションが活性化します。

- ・ 鶴田委員

イベント等を実施する方についても、固定化せず、新しい方も実施する側に入れるようにすることが重要だと思います。

- ・ 澤田委員

高齢者や子どもだけでなく、障がいをお持ちの方が孤立しないようにしていく必要があると思います。

- ・ 山下委員長

福祉は、生まれてから亡くなるまでを支えるものです。

市の事業についても、改善を加えながら、優先度を見極め進めてほしいと思います。

当委員会についても、今年度中にもう一度開催し、委員の皆さまから様々な御意見を頂戴する必要があると思います。

- ・ 事務局(稲葉部長)

市としても、地域の方を巻き込みながら事業を進めて行く必要性を感じています。

地域活動を全く行っていない方が、地域に出るきっかけとして介護ボランティアポイント制度が始まりました。事業は小さな規模で始まりましたが、地域の方を巻き込みながら、拡大していければと考えています。

地域福祉計画は、各分野の上位計画です。各分野で取り組んでいる事業を今後も紹介させていただきながら、皆様の御意見を頂戴していきたいと思っています。

- ・ 永井委員

30代から50代の中間世代の話が抜けていると感じました。

市も情報発信に力を入れてほしいと思います。

- ・ 佐藤委員

30代から50代の方をボランティアに引き込むのは難しいと思います。現在、ボランティアに参加されている方に対して、ボランティアを始めたきっかけ等についてアンケートをとるのも良いのではないのでしょうか。

また、地域イベントへの参加を考える際に重要となるのが、子どもが参加できるか、子どもが楽しめるかどうかです。そうした点も加味しながら、イベント等を検討する必要があると思います。

- ・ 鶴田委員

新たにサロンへの参加を希望されている方が、サロン情報をどのように入手したらよいのかが分かりにくいです。

市が取組評価を行う際は、何回開催した等ではなく、何人参加した等の評価基準が必要だと思います。

- ・ 斉藤委員

福祉のことを考えた場合、有事の際、路線バス等が重要になると思いますが、その運営等に関して市の意見はどこまで反映してもらえるのでしょうか。

- ・ 事務局

都市計画課、交通防災課等が担当になると思いますので、確認しておきたいと思います。

- ・ 萩原委員

介護ボランティアポイント事業において、各個人が介護施設等に問い合わせるのではなく、

窓口を創設してもらいたいです。介護施設等が求めているボランティアの内容等を窓口で集約し、発信してほしいと思います。

- ・ 事務局(滝本課長)

介護ボランティアポイント事業も、利用希望者が利用しやすいように見える化を進めているところです。

(2) その他

特になし

5 閉会

- ・ 今年度中に再度、当委員会を開催することで決定。